

を残します。また「つづく」のように同じ音が一語のなかで連呼される場合にも上の文字との関係から「づ」を残します。

以上の三項のうち、一はその約束がひろいもの、それ
にたいして一のただし書きと、二と三とはややかぎられ
た場合の約束です。そのほか、一語として現代音と合致
しないものに次の二項があります。

四 助詞を・へ・はの三つのは、現代語音ではオ・エ
・ワですが、現代かなづかいでは、を・へ・はとしたの
です。これを、お・え・わとするのは、一般社会の心理
を考慮するとき、あまりにも行きすぎた処置ではあるま
いか、現段階ではまだ、を・へ・はを残す方が自然では
あるまいか、との意見が強く主張されたことと、助詞
「を」「お」とすると語頭の「お」との区別がややむ
ずかしいというようないろいろの点から考えあわせて、
このように定められたのです。

五 「言う」という語は、現代語音ユーですから、現代か
なづかいでは、「ゆう」とすべきですが、とくにこの一
語だけは「いう」とかく約束になりました。この動詞が、
いわない、いいます、いえば、いって、

などのように活用しますので、その終止形を「いう」と

かく約束にしますと、統一的に説明ができるということ、
「ぢ」「づ」を残したときと同じように、他の活用形との関
係がよく意識されるというところに、「いう」の残された
理由があります。

以上の五つの項目をよく頭にいられたくと、現代かな
づかいの大きな約束——現代かなづかいの条文にあらわれて
いるかぎりの約束は理解できたこととなります。

が、さてこの約束をもとにして、一々のことばを書こうと
すると、疑問の点が出てくると考えられます。次章では
予想されるそれらの疑点について考えて行くことにしまし
よう。

3 「じ」「ぢ」・「ず」「づ」とオ列の長音

現代かなづかいを使う上で、予想される疑点は、主とし
てことばのなかで、「じ」をつかうか、「ぢ」をつかうか、
「ず」をつかうか、「づ」をつかうかという問題とオ列の長
音についての問題であると考えますから、その二項につい
てやや詳しく述べてみましょう。その他の点では、

助詞のはは、はと書くことを本則とする。

という例外を、助詞「は」が単独につかわれる場合だけに考
えて、

では、ては、には、とは、のは、からは、よりは、ので

は、たりは、こそは、までは、ばかりは、だけは、ほどは、ぐらいは、などは、あるいは、もしくは、おそろくは、ねがわくは、こいねがわくは、おしむらくは、または、さては、すこしは、いずれは、ついては、：

などのように、「は」が他の語とつづけてつかわれるときは、「わ」でよいのではないかと考える人がおうおうありますが、これらの場合も、もちろん、「は」を用いるのです。ただし、以前から「わ」をつかっていた、

いやだわ、来るわ来るわ、食うわ食うわ、

の類は、もとのまま「わ」をつかうということを、念のため申し添えるにとどめておきます。さて、「じ・ぢ・ず・づ」とオ列長音については、すこし詳しく説明する必要がありますが、まずから、

第一「ぢ」を書くもの

第二「づ」を書くもの

第三「じ」「ず」を書くもの

第四「お」「おお」「おう」

の順で表示してみましょう。

(漢字の右側に×印をつけたものは、当用漢字表にない漢字です。)

第一「ぢ」を書くもの

一、二語連合の「ぢ」

○ち(血)

はなぢ

清

いきち
なまち
ふるち

○ちえ(智慧)^{××}

いれぢえ
さしぢえ
さるぢえ
わるぢえ

○ちか(近)

みぢか
まぢか
はしぢか
てぢか

○ちかい(近)

けちかい
てぢかい

まぢかい

「じ」みじかい(短)

○ちから(力)

うでぢから
くそぢから
そこぢから

たぢから(手)

ばかぢから

たぢから(税)

○ちしゃ(菫)^{××}

あかぢしゃ
こうやぢしゃ
しろぢしゃ

○ちち(乳)

からぢち
もらいぢち

じ

そえじ
ほそじ
むなじ

○ちゃ (茶)

はぢゃ

清

せんぢゃ

まっぢゃ

うぐいすぢゃ

しらぢゃ

○ちゃや (茶屋)

かけぢゃや

たてばぢゃや

はぢゃや

ひきてぢゃや

まちあいぢゃや

みずぢゃや

○ちゃわん (茶碗)×

うがいぢゃわん

コーヒーぢゃわん

ごろはぢぢゃわん

ちゃづけぢぢゃわん

めしぢぢゃわん

ゆのみぢぢゃわん

○ちようちん (提灯)×

おだわらぢようちん

かごぢようちん

ぎふぢようちん

たかはりぢようちん

つりぢようちん

はこぢようちん

ふぐぢようちん

ほおずきぢようちん

ゆみはりぢようちん

○ちようし (調子)

ことばぢようし

清 うわっちようし

ほんちようし

○ちらし (散)

もんぢらし

○ちりめん (縮緬)×

ひぢりめん

くろちりめん

しろちりめん

はぎちりめん

たんごちりめん

ろちりめん

ニ連呼の「ぢ」

ちぢかむ

ちぢこまる

ちぢまる

ちぢみ

ちぢむ

ゆうぜんちりめん

ちぢめる

ちぢらす

ちぢれる

ちぢか

ちりぢりばらばら

次のような場合は連呼とはいえないので、前のかなには関係なくかきます。

「ち」につづける「じ」

いちじ (伊知地)×

いちじく

いちじるしい

うちじに

ちじく (地軸)

ちじん (知人)

にちじ (日時)

みちじるし (道標)

けんちじ (知事)

「じ」につづける「ち」

ぢちんさい

ひとぢち

ぢち (自治)

第二「づ」を書くもの

一、二語連合の「づ」

○つ「津」

つづうらうら

「ず」ときわず

○つえ (杖)×